

D-1 学習指導の工夫②

子ども達に「強い課題意識」があり、個々の調べ活動や事実の交流によって「確かな事実認識」がなされたとき、課題に対して豊かに考える授業を展開することができる。

本実践をとおして、強い課題意識と確かな事実認識があるとき、子ども達は豊かに考えることができることが分かった。

そのためには、自分の生活と社会事象とのかかわりを見つめたり、具体的な体験活動を取り入れたり、矛盾やギャップのある事実を提示するなど、社会事象に対する興味・関心を高め、課題意識を生み出していくことが大切だと考える。

また、充実した調べ活動と交流活動による事実の再構成が確かな事実認識を生み出すことが分かった。そのためには、調べ活動の環境や時間の保障だけでなく、体験活動やゲストティーチャーの活用などの五感をとおした活動を単元に位置づけることが有効であると考えられる。

つまり、子ども達の「関心・意欲・態度」を大切に課題をつくり、「技能・表現」と「知識・理解」の力を相互に絡めながら事実を再構成し、確かな事実認識をもった上で、事実を問うのではなく、思考を促すような質の高い（既習を生かせる、多面的な見方ができる、個々の考えを関連づけられる）課題を投げかけたとき、子ども達は豊かに考えることができるのではないかと考える。

